

校長室便り

第4号 岸和田市立岸城中学校

【2021.7.15】校長 高橋 一禎

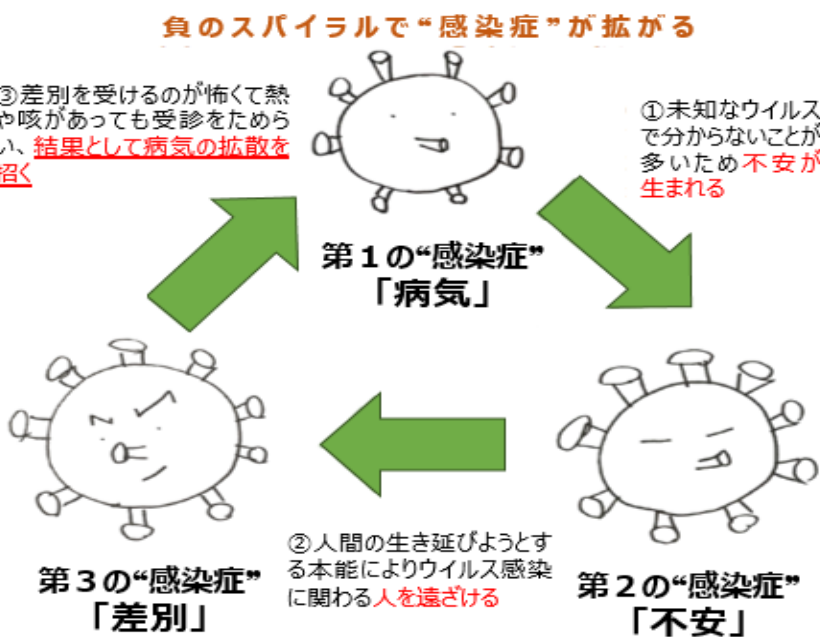
大阪府では、4月25日に出された緊急事態宣言は、6月20日によりやく解除されましたが、まん延防止等重点措置が出されたまま、延長されています。

最近、新型コロナウイルスに感染する人の数も増加傾向にあります。本校においても、教職員の感染が確認され、保健所・教育委員会の指示・指導のもと臨時休校になりましたが、7月15日、今日より学校を再開することとなりました。皆さんには、心配をかけ、部活動の試合においてもご迷惑をかけたことを大変申し訳なく思っています。

新型コロナウイルスは、いまだ感染状況に収束は見えず、誰が感染してもおかしくない状況であり、決して感染した人が悪いということではありません。感染した人やその家族などに対する不当な差別や偏見、いじめ、誹謗中傷は、あってはならないものです。うわさなどを無責任に流すような行為も絶対にしてはならないことです。冷静に考え行動すること、正しい情報を収集し、差別的な言動に同調せず、正しく恐れ、正しく対応をしていかなければなりません。ただし、このようにいわれて1年以上たつのに、残念ながら、いまだ新型コロナウイルスに関する「差別・偏見」はなくなっははいません。

そして、この偏見や差別、感染したら非難されるような状況が、感染者の早期発見を阻害し、感染拡大を促進してしまっています。

この「感染症」の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が不安を呼ぶ。この悪循環は、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が不安を呼ぶ。この悪循環は、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が不安を呼ぶ。



3つの“感染症”は、どうつながっているの？

(出典：日本赤十字社)

◎うわさ等の風評被害が生じないよう冷静な対応を

新型コロナウイルスに感染した本人や周りがつらい思いをすることは何があっても許されたいことではないです。しかし、感染者を特定しようとする動きや心無い噂を広める行為が後を絶ちません。インターネット・SNS・噂などでは、事実と反する不確かな情報が流されることがあります。これらの情報を信じたり、拡散したりすることは、新型コロナウイルス感染症に関わる人権侵害につながります。たくさんの情報に惑わされずに正しい判断をするとともに、SNS や噂話などの対応の在り方を含め、十分配慮した行動をとってください。感染した人や濃厚接触者となった人は、病気への不安とともに、社会が受け入れてくれるのだろうか、不安な気持ちで毎日を過ごしています。これらの人が、医師や保健所からの指導のもと、勇気を振り絞って日常生活を再開したときに、心ない誹謗中傷やいじめ、差別・偏見などにより心を痛めるようなことは絶対にあってはなりません。

今後も、人のつながりを大切にする岸城中学校区のすばらしさを生かした学校でありたいと考えています。これからも、力を合わせ、誰もが安心して過ごせる学校にしていきたいと思います。

◎シトラスリボンプロジェクトのご紹介

当たり前と思っていた普段の暮らしを揺さぶっている新型コロナウイルス。たとえウイルスに感染しても、だれもが地域で笑顔の暮らしを取り戻せる社会に。コロナ禍で生まれた差別、偏見を耳にした愛媛県の有志がつくったプロジェクトです。愛媛特産の柑橘にちなみ、シトラス色のリボンや専用ロゴを身につけて、「ただいま」「おかえり」の気持ちを表す活動を広めています。リボンやロゴで表現する3つの輪は、地域と家庭と職場(もしくは学校)です。今、全国に広がりを見せています。

「ただいま」「おかえり」と言いあえるまちなら、安心して検査を受けることができ、ひいては感染拡大を防ぐことにつながります。また、感染者への差別や偏見が広がることで生まれる弊害も防ぐことができます。感染者が「出た」「出ない」ということ自体よりも、感染が確認された“その後”に的確な対応ができるかどうか大切です。コロナ禍のなかに居ても居なくても、みんなが心から暮らしやすいまちを今こそつくろう。コロナ禍の“その後”も見すえ、暮らしやすい社会をめざそうというものです。

◎コロナに負けない

コロナに感染しないというような意味だけではありません。日常が危機に陥ったとき、弱い気持ちに負け、差別やいじめが起こることが多くみられます。お互いに「想像力を働かせ、他者の立場を考える」ことをわすれず、コロナに関連した偏見や差別をしないということです。コロナ感染が拡大する中、いろいろと不安を感じることは当然です。何か気になることがあれば、いろいろな相談機関もあります。先生に遠慮せず声をかけてください。